「私とJ. S. バッハのオルガン曲」

株式会社グリーンハウス　代表取締役社長
田沼 千秋

東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第3回は、東京フィルの賛助会企業であり、「食と健康、ホスピタリティ」を掲げて創業74年を数える株式会社グリーンハウス 代表取締役社長の田沼千秋様。これまでにも東京フィルのコンサートだけでなく、楽曲や出演者にちなんだメニューをお届けする「ハーモニーランチ」や「プチ・クラシック講座」など、食と音楽をつなぐさまざまなイベントでご一緒させていただいています。東京フィルの理事もつとめる田沼様が、クラシック音楽に寄せる情熱を綴ってくださいました。

私とクラシック音楽との出会いは1970年代、慶應高校2年生の頃に遡ります。校舎の正面玄関から2階に上ったところに視聴覚教室があり、10数名の学生が、ヘッドフォンをしてレコードから流れる、クラシック音楽を聞いていました。思わず、私もヘッドフォンを借り、レコードから流れていたJ. S. バッハの音楽を聴いたことが、私のクラシック音楽との出会いとなります。それはカール・リヒターが弾くJ. S. バッハのオルガン曲4曲が入っているレコードで、リヒター氏は当時ミュンヘン・バッハ管弦楽団の指揮者として、また、バッハ同様に、当時のライプチヒにある聖トマス教会のオルガニストとしても著名な方でした。

「トッカータとフーガ ニ短調 BWV565」等4曲が入ったこのレコードは、3回も買い替え、その感激が忘れられず、大学入学後、クラシック音楽愛好家のクラブにも入りました。バッハの全オルガン曲246曲が入った、パイプオルガン全集を買ったことを覚えています。

聖トマス教会の前のバッハ像

趣味は嵩じて、1981年にヤマハ株式会社さんが製造されたクラシックパイプオルガン仕様のエレクトーン F-70を買ったり、2000年にはバッハの生誕の地のアイゼナハから、最後に活躍したライプチヒまで、65年の生涯を過ごした旧東ドイツ圏内の由緒ある都市や史跡を回る1週間の旅にも出かけました。

7月にオープン予定の「ホテルグランバッハ仙台」のパイプオルガン

1997年から始まり、2019年が第10回となる、株式会社グリーンハウス主催の東京オペラシティ コンサートホールでのクラシックコンサートでは、幾度もJ. S. バッハの曲を東京フィルさんに演奏して頂き、また仕事の面でもホテル事業で、『ホテルグランバッハ』と名付けたブランドを立ち上げ、クラシック音楽と健康的な地元の食材を使った食事を楽しんでいただくホテルを京都と熱海で営業しています。今年2021年7月には仙台、11月には銀座にも新たに開業する予定です。

ホテルグランバッハ東京銀座
（2021年11月オープン予定）

「食と健康を通して人に喜ばれる」事業を展開する弊社ですが、食と音楽を通した心からのおもてなしを、東京フィルさんと力を合わせて、今後も進めて参りたいと心から願っております。

田沼千秋（たぬま・ちあき）
1975年慶應義塾大学経済学部卒業、野村證券株式会社入社。1977年株式会社グリーンハウス入社。1980年コーネル大学大学院ホテル経営学科卒業。1981年株式会社グリーンハウスフーズ代表取締役社長（現任）。1993年株式会社グリーンハウス代表取締役社長（現任）。2019年コーネル大学プレジデンシャルカウンシラー（現任）。
平成23年より公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団理事。

株式会社グリーンハウス様は1947年創業。『人に喜ばれてこそ会社は発展する』の社是の精神を原点とし、現在は国内外に2600店の運営先をもつ総合ホスピタリティ企業です。日本と北米で600万人規模のユーザーが利用する最先端の食事管理・ダイエットアプリ、「あすけん」の開発など、食と健康に関わるビジネスのフロントランナーとして評価されています。https://www.greenhouse.co.jp/